

令和4年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要
むらづくり部門

長寿を目指す里・下^{しも}～生きがいを持ち健康で明るく暮らすむらづくり～

○集団等の名称 下集落支援事業委員会（代表 大下 裕宣）

○所在地 京都府南丹市

○受賞理由

・地域の沿革と概要

南丹市は、京都府の中央に位置する。下区は、南丹市北東に位置する美山町の中でも中心部から離れた地域にある。36世帯、人口68人、高齢化率47.1%と少子高齢化が進み、小学校も統合・廃校となり、耕作放棄地が発生する恐れや、地元行事の継続にも支障が出ており、住民の中で集落の維持と存続に危機感が広がっていた。

平成25年、南丹市の過疎化・高齢化対策補助金制度を契機に、地区住民内の集落活性取組への機運が高まり、地区住民が生きがいを持って健康で明るく暮らしている地域づくりを目指し、「下集落支援事業委員会」を設立した。

・むらづくり組織の概要

下集落支援事業委員会のもと、重点的に取り組む事業を皆で検討し、農業、食文化、伝統文化、交流の4部門でチームを編成し、集落全体で事業を推進している。

・むらづくりの取組概要

(1) 農業生産面

- ① 耕作放棄地対策を兼ねて農産物の栽培に取り組み、特に九条ねぎの栽培では優良なねぎが順調に育つようになった。また、収益率の高いにんにく栽培を始め、新たな品種に挑戦した結果、出来も良く好評を得ている。
- ② 高齢農家の水田の機械作業を請け負う等、農地の維持に努めるとともに、民間企業への農作業委託も試みている。集落の農地全域にドローンを使って農薬を散布し、効率化・省力化を行う等、新たな手法、技術を柔軟に取り入れている。
- ③ 女性が中心となり、伝統食「鯖のなれ寿司」や地元産もち米を使用した「のし餅」等の加工品の商品化に励み、技術の継承や世代間の融合が図られている。
- ④ 地域おこし協力隊員が地区内で新たにさつまいも農業をはじめ、農地の保全のみならず農業体験イベントを行う等、農業の楽しさを内外にPRしており、今後の農業の担い手として希望が高まっている。

(2) 生活・環境整備面

- ① 炭焼き文化復活のため、新たに「炭焼き窯」を作り、技術を持つ高齢者を中心に質の高い木炭の製作に取り組んだ。技術の継承は地域内にとどまらず、炭焼きの奥深さに魅せられた若い女性グループへの講習を実施するまでになっている。
- ② 長年、集落全体で地区内の山村留学センターをサポートしてきたことで、地域外を受け入れる寛容さや柔軟性を備えており、京都や大阪の教育団体と連携し農園の運営や定期的な交流活動を行う等、意欲的に地域外ファンづくりを行い、地域住民の活気や「おもてなし」の心、地域への誇りを持続させている。
- ③ 村のシンボル「不動尊の滝」に450年続く伝統文化の継承や、新たに発見された「下村城跡」の情報発信を通じた観光による活性化に取り組んでいる。

・他地域への普及性と今後の発展方向

本取組は、集落機能を維持するため、地域資源を掘り起こし、農地維持や交流人口の拡大に取り組んでおり、今後の取組の継続が期待できる。集落全体で活動を推進し、活動そのものが集落の活性化に繋がり、「長寿を目指す里・下」を実現している本取組は、全国におけるむらづくりのモデル事例になり得るものである。